

未知数の可能性を秘めた高校生たちへ

審査員からのメッセージ



Selfwing Vietnam Co.,Ltd.
CEO

平井由紀子氏

幅広い層を対象に、大学と共同研究をした独自プログラムを展開。2008年、教育分野として初の「中小企業庁長官表彰」を受ける。ベトナムダナン市を「日本の教育学園都市に」を目標に教育事業を展開中。

「起業家精神を持った人材の育成に期待」

高校生たちにとって、高校生ビジネスプラン・グランプリへの参加は、学習の場であるとともに、ビジネスを通じて「大人」として評価を受け、それが時に厳しくても、そこからさらに真剣に悩み、考え、新しいアイデアを考える貴重な場であると考えます。

家庭では子ども、社会では生徒。いつも大人から与えられ、守られ、助けられていた彼ら彼女らが、自分のビジネス、知恵、努力で、「世界や地域の問題を解決できる」ということを実感し、自分たちに誇りと自信を持てる本当に素晴らしい場です。

日本公庫は、高校生ビジネスプラン・グ

ランプリで、彼ら彼女らが目指すべき“甲子園”を実現してくれました。そして、“甲子園”で活躍した起業家の卵が、ここにきて次々と孵化しようとしています。今後は、さらに多くの起業家と起業家精神を持った人材の育成の場になると信じています。

高校生ビジネスプラン・グランプリが早期起業家教育と、実際の起業を橋渡しして下さる貴重な場であることに、心から感謝しています。この取り組みを通して力をつけた人材の「起業」をお手伝いさせていただければ、早期起業家教育の研究・実践をしている者として、こんなにうれしいことはありません。



NPO法人ETIC.
代表理事

宮城治男氏

学生起業家支援の全国ネットワーク組織として活動をスタート。以来、若い世代が自ら社会に働きかけ、仕事を生み出していく起業家型リーダーの育成に取り組み、800人以上の起業家を支援。

「地方創生と高校生たちの活躍はリンクする」

高校生ビジネスプラン・グランプリは、チームでまとまって、学校や先生方がしっかりサポートされて勝ち上がってくるところと、個人でエントリーしてくれている人たち、それぞれに進化が起きてきていて興味深いです。私は、両方とも意味があると思っています。前者のチームはある意味、教育のあり方を問い直し、変えていくインパクトがありますし、地域の資源を使った商品開発など地域を巻き込んでいることも、とても意義があると思います。個人では、とても実力がある人が増えていて、近い将来に大きく成長するだろうと予感をさせる人もいて楽しみです。

第1回大会から審査員を務めていますが、特に印象に残っているのは、第5回大会でグランプリを受賞した市川高校です。都会の高校生が、地域を支援するモノづくりに挑戦しているわけですが、ある意味、ロボットコンテストとは違うリアリティーとおもしろ味を感じました。浮ついたところもなく自然体で、でもオリジナリティーがある、彼らのようなチームがたくさん出てくるとおもしろいですね。

私は、地方創生と高校生たちの活躍はともリンクすると思います。今後は、より地域を巻き込んで頑張る高校の取り組みも加速していけばいいと思っています。



未知数の可能性を秘めた高校生たちへ

審査員からのメッセージ



(株)ベアーズ
取締役副社長
高橋ゆき氏

夫とともに家事代行サービス「ベアーズ」を創業。2017年、日本初の「家事代行サービス認証」(日本規格協会)を取得。各種ビジネスコンテストの審査員やコメンテーター、家事大学学長として活躍中。

「後悔しないように“自分らしく”歩んで！」

地域や社会や国を、未来に向けてより豊かに残すという発想でプランを作成する高校生の情熱に毎回驚かされ、年々レベルアップするプレゼンテーションを見るのが楽しみです。

もし自分が高校生だったら、「出産後の女性に対し、心も体もお母さんになるための準備をしてあげられる場所をつくりたい」と思います。お母さんが心と体を開放することによって、愛着障害を持つ子どもや、大人になってもコンプレックスに悩み苦しむ人を減らしたい。これに共感してくれる企業を集め、パビリオン形式で取り組みたいと思います。

「明日の太陽はだれにも必ず昇ってくる、だから時に立ち止まり反省することはあっても、メソメソしたり悲しんでいる時間はもったいない。人生はあつという間だからね。後悔しないよう前を向いて、しっかり“自分らしく”歩め！そして、必ず他人のために生きられる人間になるために、自分を大切にすることだよ」。私が高校生の頃に他界した、最愛の父からのメッセージです。

高校生が動けば世界は変わります。「人生まるごと愛して」、夢に向かって邁進してほしいと思います。



(株)和える
代表取締役
矢島里佳氏

慶應義塾大学在学中に(株)和える設立。全国の職人とオリジナル商品を生み出す“0から6歳の伝統ブランドaeru”を立ち上げ、伝統を次世代につなぐ仕組みづくりを行う。2017年第2回APEC Best Award大賞、Best social impact賞。

「疑問や原体験から生まれるプランが楽しみ」

年々、参加数が増えており、ビジネスプランも多種多様になっていると感じています。いい意味で変わらないのは、自分ごとから生まれてきているビジネスプランであること。高校生の疑問や原体験から生まれる素直なビジネスプランを、毎年楽しみにしています。

私は、日本の伝統を次世代につなぐために、継続性を大切にしたいと思い、ビジネスという手法を用いるべく起業しました。ですから、私たちの一番の目的は「日本の伝統を次世代につなぐこと」。そのために、利益を

出し続けることは最低限必要だと思っています。

また、起業家になることが必ずしもいいとも思いません。私は、自身が考えた職業が世の中に存在していなかったため、生み出すところから始めました。しかし、ゼロから始めるのは時間がかかります。もしも、やりたいと思ったことをすでに社会で始めている人がいるのであれば、人生の限られた時間を最大限生かすために、共に事業を行うこともいい選択です。高校生のみなさん、“起業家精神”を大切に、自分の気持ちに素直に生きてください。



内閣府
政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付
企画官
石井芳明氏

内閣府・経済産業省でベンチャー・中小企業政策等に従事。法律、支援制度を企画・実施するなど主にベンチャー支援で活躍。青山学院大学、早稲田大学のベンチャー講座も担当。商学博士。

「高校生の取り組みが大人を元気にする」

第1回から審査させていただいていますが、参加校・参加者の数が増え、年々パワーアップしているように思います。常連校とニューフェイスとの対決も楽しみにしています。

高校生のビジネスプランの特徴は、伸び伸びとしていること。素直に、真摯に課題に取り組む姿勢があり、粗さや詰めの甘さを超越して、魅力的な輝きを放つプランが多いです。

特に、地域の活性化を目指すプランは、地域企業や市民を巻き込む運動に発展する

ものもあり、高校生の取り組みが大人を元気にするという効果に注目しています。

全国に拠点を持つ日本政策金融公庫の担当者が、実務に基づくアドバイスでこのコンテストを下支えていることも素晴らしいと思います。

日本の未来を支えるのは、若い人たちの「知恵」と「熱意」と「行動」。それを磨くための力試しとして高校生ビジネスプラン・グランプリは意義深く、できるだけ多くの高校生にチャレンジしていただきたいと思っています。